

決算を振り返る

令和6年度事業報告と今年度の計画を含む全5議案が承認されました。概要を、この特集でご報告致します。



令和6年度実績 ()内は前年比

リンゴ入庫数量 615,591箱 (111%)
販売総額 50億4千万円 (111%)
コメ出荷数量 5,706俵 (108%)

安定性の指標

単体自己資本比率 23.79%

正組合員	448名
本人出席	137名
議決権行使書提出	189名
代理人出席	29名
計	355名

過半数以上出席のため通常総会成立

準組合員出席者 10名

《通常総会 提出議案》

報告事項1

令和6年度貸借対照表、損益計算書、注記表並びに会計監査人の監査報告及び監事の監査報告について

議案第1号

令和6年度事業報告及び剰余金処分案の承認について

議案第2号

令和7年度事業計画の設定について

議案第3号

第12次経営・振興三ヶ年計画の設定について

議案第4号

令和7年度における理事及び監事の報酬について

議案第5号

役員の選任について

付帯決議

その他報告事項



円滑に議事進行を行う紙漣沢地区の成田正晴さん

9月25日、弘前市中央公民館相馬館において、第61回通常総会を開催しました。

議事では、令和6年度剰余金処分案及び事業報告や事業計画の設定、経営・振興三ヶ年計画の設定、役員改選案など全5議案と付帯決議が全て原案どおり可決されました。

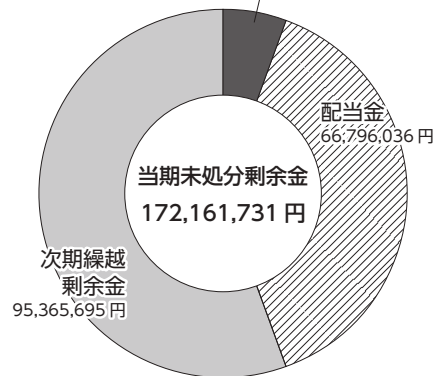
農家経営維持対策積立金 10,000,000円

農産物の自然災害等による減収や価格低迷・生産資材の高騰時などにより、組合員に支援が必要となったときにのために積立しているものです。

次期繰越剰余金 95,365,695円

教育・生活・文化改善事業の費用に充てるための繰越額10,000千円が含まれています。

農家経営維持対策積立金
10,000,000円



配当金 66,796,036円

出資配当金 11,451,194円

出資金は2%です。
ただし、年度内の増資及び新加入については日割計算を行っています。

事業分配配当金 55,344,842円

- (1) リンゴ生果出荷数615,591箱に対し1箱50円
- (2) コメ出荷数量5,706俵に対し1俵200円
- (3) 予約購買(肥料・農薬・袋)に対し7%
当用(同)に対し3%
- (4) 共済保有高1,949,146万円に対し、対万1円

大場組合長による挨拶

秋の作業が忙しい中、ご出席いただき心より御礼申し上げます。
また、弘前市をはじめとする関係機関や下部組織の皆様にもご多忙の中ご出席いただき、重ねて御礼申し上げます。

さて、今年1年を振り返りますと、豪雪による雪害や夏の高温による干ばつ、最近の強風による被害などがあり、被害を受けた組合員の皆様には大変な思いをされたことと思います。このような状況の中で、日々災害に備えながら作業を続けていることと思います。が、これからの収穫時には健康には気を付けて作業して頂きたいと思っています。豪雪災害対策として、今年の冬に中型ロータリー車を購入し、これまでの大型ロータリー車1台とともに農道の除雪に一層尽力してまいります。
新年度に入り、ドローンを購入いたしました。民間の業社さんがありますが、消雪剤散布に関して作業時期が重なるため、希望する時に予約が取れないこともありま

す。そのため、思いきって購入を決定しました。この機種は稲作にも利用できるため、組合員の皆様にもぜひご活用いただきたいと考えております。

リンゴに関しては、61万箱の入庫があり、若干少ないと感じていましたが、入庫頂いたリンゴを懸命に販売した結果、一般果樹も含めて販売額が初めて50億円を超えました。

米に関しては、昨年の生産分に追加払いがあったため、約1億3000万円の売上となりました。

購買事業は、肥料や農薬、農機部門、スタンド部門の計画を上回る結果となりましたが、その背景には数量の減少と単価の上昇があり、購買品の単価が上がっている中での売上増であり、心から喜べる状況ではありません。

信用部門では、年度末の残高が111億、貸付残高が28億円とリンゴと米の単価の高さが成果に影響を与えていると考えています。

共済事業においては、推進目標を9年連続で達成しており、これは組合員の皆様のご協力によるものだと思います。

財務面では自己資本が23.79%、固定比率が219.46%という結果が出ました。案件にも出てきますが、当期剰余金9038万、前期繰越剰余金8178万、当期末処分剰余金1億7216万を計上することができました。皆様には出資配当2%、利用分量配当は例年並みで5534万円、合計で6679万ほどを今日の総会で承認いただければ、皆様にお返ししたいと考えております。

ロマンTOPアが休業し、相馬地区を活性化させることが農協の使命であると考えており、様々な場面で貢献していきたいと思っていますので、これまでと同様のご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。総会での挨拶とさせていただきます。



舞台に掲げられた 4つのスローガン

「自己資本の増強に努め、財務と経営の健全性を維持しよう」
「自己改革をすすめ、所得増大と地域の活性化に貢献しよう」
「飛馬りんご高品質安定生産で、ブランド力を発揮させよう」
「労働力不足の対策に取り組み、農業生産の拡大をはかろう」

「時代変化に対応した事業・経営基盤づくり」

農業・農協を取り巻く環境は、農家の高齢化や未だ人手不足や耕作放棄地の増加が続いています。異常気象と高温が定着していることに加え、物価高騰がさらに農業経営を窮屈なものとしています。

そこで事業基盤強化に向けては、生産量維持を優先課題として、補助労働力の確保や育成を目指し、継続的な労働力の創造方法を探求し、農業分野のデジタル技術を活用しながらサポートします。

販売部門では、「飛馬りんご」のブランド力の維持・発展は言うまでもなく有袋化や着色優良系統を勧め、スマートフォンフレッシュの活用で所得の向上に努め、購買部門として安全供給とコスト上昇を抑制するため予約注文を強化し、

利便性と供給確保に努めます。信用部門は営業店システムが導入され、信用貸出システムによる業務の効率化を目指します。

JA共済として、組合員・利用者からの信頼と期待に応えるため一人ひとりの必要性に応じた保障の提案をします。

職員への人事労務・マネジメント力の向上と不正などを未然に防ぐ内部管理体制の維持、研修及び人事制度の整備をして参ります。

これらを基本施策とし、法令やルールを守り、職員の自己啓発を行い、役職員一同手をとり合って組合員の皆様に安心して頂けるよう精進して参ります。

